

○ 小・中・高等学校における認知症の人などを含む高齢者に対する理解促進のための取組

学習指導要領及び同解説における学習の位置付け

学習指導要領から、関連する領域等を抜粋し、表記

校種	小学校「家庭科」	中学校「技術・家庭科」	高等学校「家庭科（家庭基礎）、（家庭総合）」、「福祉科」
内容	A 家族・家庭生活	A 家族・家庭生活	科目「家庭基礎」 A 人の一生と家族・家庭及び福祉
内容・ 内容の 取扱い	[内容] (3) 家族や地域の人々との関わり イ 家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え、工夫すること。	[内容] (3) 家族・家庭や地域との関わり ア(イ) 高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解すること。	[内容] (4) 高齢期の生活と福祉 ア 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解するとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けること。 <u>認知症などについては、物忘れと認知症の違いや認知症への対応方法についても触れる。</u>
	[内容の取扱い] 幼児又は低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々との関わりについても扱う。 個々の家庭の状況を十分に把握した上で、家庭や地域の人々の理解と協力を得て、適切な学習活動を行うようにする。	[内容の取扱い] <u>高齢者の身体の特徴についても触れること。</u> また、高齢者の介護の基礎に関する体験的な活動ができるよう留意すること。	科目「家庭総合」 A 人の一生と家族・家庭及び福祉 [内容] (4) 高齢者との関わりと福祉 ア(ア) 高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深めること。 ア(イ) 高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について理解を深めること。 (5) 共生社会と福祉 家庭と地域との関わりについて理解するとともに、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について理解を深める。
			科目「福祉科」
			内容〔指導項目〕 (4) <u>認知症の理解</u> ア 認知症の基礎的理解 イ 認知症に伴う心身の変化と日常生活 ウ 認知症を取り巻く状況 (4)については、 <u>認知症の特徴と生活への影響、予防と治療、支える家族や生活面への影響について扱う</u> こと。ウについては、 <u>認知症ケアの歴史や理念、罹り患者数の推移、認知症高齢者への支援対策の概要についても扱う</u> こと。

都立高等学校における取組

- 教科「家庭科」（家庭基礎・家庭総合）において、**認知症を含む高齢者の心身の特徴**を学んでいる。
- 福祉科の設置している学校においては、地域における認知症のサポート体制や、家族への支援を学んでいる。
- その他、保健、都の独自教科「人間と社会」等で、高齢者福祉や支え合う社会について、学んでいる。

事例「都立野津田高等学校における『認知症サポーター養成講座』の実践」

学科名：福祉科

学 年：第2学年

授業名：社会福祉基礎・介護福祉基礎「認知症サポーター養成講座」（4時間扱い）

内 容：①認知症を取り巻く状況 ②認知症とはどういうものか
③認知症を予防しよう ④認知症サポーターとは

受講した生徒の感想：

- 自分の身の回りにも、多くの認知症高齢者がいると思うので、支援ができるようになりたい
- 認知症には種類がたくさんあって、その特徴が分かり良かった
- 認知症の人への対応の心得「3つの『ない』※」を意識していきたい

※3つの「ない」：驚かせない、急がせない、自尊心を傷つけない



介護福祉士を目指す生徒たちにとって、認知症への知識・理解と支援方法の習得は、必要不可欠である。本講座などを通じて、学びを深めている。